

治罪法備攷上編

第五

ワ 15

815

5

和装本

6



明治七年刊成

司法省七等出仕井上毅纂

治罪法備攷上編

司法省檢事局藏版

保. 15
815
天

東京大学
法学部



治罪法備考上編第五卷

○第十六章

提喚

オルトラン¹氏曰、千七百八十九年ノ建國法
ニ日何人モ、法章ニ示ス所ノ程則ニ從フニ
非ルヨリハ、拿捕及勾留ヲ受ケ得ル¹無シ、
是レ佛蘭西公法大則ノ一ニシテ、千八百五
十二年²那破倫³ノ遵依シテ更メザル所ノ者
ナリ、豫審已⁴ヲ得ザルノ時ニ於テ、人身自由



同法省

ノ大權ヲ離レ、便宜處分スルノ方法ハ、程則
ニ從ヒ付下スルノ令狀トス、現今、行フ所ノ
令狀、一曰、喚徵狀、二曰、引致狀、三曰、勾留狀、四
曰、收監狀、

先付喚徵狀

允ッ現行犯ヲ除クノ外、罪犯ノ告訴告發アリテ、
目代ヨリ請牒ヲ付シ、糾問法官ニ傳フル者ハ、糾
問法官先ッ喚徵狀ヲ付シテ喚問シ、然ル後ニ處
分ス、直チニ拿捕スルヲ得ズ、

舊法、重罪被告人ハ、喚徵狀ヲ用ヒズシテ、直

チニ引致狀ヲ下スヲ要セリ、千八百六十五
年以來、今ノ法ニ改メ、重輕罪犯、及定居有無
ヲ論セズ、糾問法官先ッ喚徵狀ヲ下ス、但々時
宜ニ隨ヒ直チニ引致狀ヲ付スルヲ得、
喚徵狀トハ、日時ヲ刻メテ、被告人ノ出頭ヲ命ジ、
被告人邏卒ノ看押ヲ受クルヲ無ク、刻ムル所ノ
日時ニ於テ、自ラ糾問法官ノ官署ニ出頭スル者、
是レナリ、

喚徵狀式

セリ又縣裁判所

喚徴狀

七一又縣裁判所ノ糾問法官何某、役ニ應スル
 允テノ使部、及允テノ公力士ヲ備警兵ニ命ス、
 何所居住、何職業、何某
 彼レ誅告セラレタル事件ニ付キ、我等ノ前ニ
 於テ訊問ヲ受ル爲ニ、何月何日何時、巴里裁判
 所我等ノ本局ニ出頭スベキ喚徴ヲ爲シ、彼レ
 出頭セザル時ハ、更ニ引致狀ヲ付スベキヲ
 宣告スベシ、因テ我等、本狀ニ花押及調印シタ
 リ、

何年月日、巴里裁判所ニ於テ

糾問法官花押印

使部、若クハ備警兵、喚徴狀ヲ帶行シテ、被告人
 家ニ至リ、宣示ス、宣示ノ法ハ、其ノ正本ヲ示シテ
 知悉セシメ、其ノ副本ヲ彼レニ交付ス、宣示已ニ
 終テ、帶行人、宣示証ヲ狀尾ニ書キ入レ、正本ハ、目
 代、若クハ糾問法官ニ還付スルニ具ヘ、副本ヲ遺
 シ、復命ス、

喚徴狀宣示証式

本日、何年何月何日、何郡裁判所目代貴下ノ求

メニ從ヒ、目代貴下ハ、原告タル為ニ、本裁判所
書記局ヲ以テ、假ノ居所ト定ム、(原注)
自身、何所屯駐備警兵何某、何所居住、何職業、甲
被告ノ住所ニ至リ、其ノ人ニ面語シ、或ハ其ノ
人、何某ニ本郡糾問法官貴下ヨリ付セラレタ
面語シ、ル、何月何日ノ喚徴狀ヲ宣シ、其ノ正本ヲ披示
シテ、其ノ副本ヲ交付シ、且、彼レ已ニ狀告ヲ知
悉セザルヲ容サス、當ニ其ノ命ヲ奉ズベキヲ
ヲ告語セリ、

備警兵 花押

右宣示ヲ行フ外、被告人狀告ヲ奉スルト否ト

訊問 卽刻

ヲ問ハズ、帶行人強迫拿捕ノ處分アルヲ得ズ、
喚徴狀ヲ得、刻定ノ時限ニ出頭シタルキハ、糾問
法官卽刻訊問ヲ加フ、故ニ卽刻訊問ス、
被告人若、刻定ノ時限ニ出頭セザル時ハ、未タ逃
ラズ、糾問法官卽時引致狀ヲ付ス、或ハ喚徴狀ヲ待
引致狀ヲ付スルアリ

引致狀

引致狀ハ、被告人ヲ隨所撞見シ、之ヲ糾問法官ノ
前ニ引致セシムル者ナリ、
引致狀ヲ帶行シタル使部、若クハ備警兵ハ、被告

人ヲ勾引シテ、其ノ狀肯ニ順フ者ハ、隨行シ來ラ
シメ、其ノ欲セザル者ヲ強迫シ、其ノ抗拒シテ順
ハズ及已ニ順フノ後逃亡セントスル者ハ、カヲ
用ヒ拿捕スベシ、若シカ、足ラザルキハ、便近兵士
ノ助カヲ求ムルヲ得、

引致狀式

何縣何郡裁判所

何某引致狀

法章及皇帝ノ命ニ從ヒ、
我等、何縣何郡ノ糾問法官、何某、役ニ應スル

テノ使部及凡テノ公力士備警兵ヲ指スニ命ス、

何所出產、何所居住、何職業、何歳、姓名知レズ、

平生云々、アタリ衆縛号シテ何トス、

彼レ被告事件ニ付キ、訊問ヲ受ル爲ニ、法章ニ

循ヒ、我等ノ前ニ引致フベシ、

凡テノ公力士陸軍兵、郷兵、警卒ヲ兼ネ指スニ求ム、若シ本狀

施行ノ爲ニ要用ナルヲアラバ、助カヲ借スベ

シ、因テ我等、本狀ニ花押及調印シタリ、

何年月日、何縣何郡裁判所ニ於テ

糾問法官花押印

附人相書

宣示証式

本日何年何月何日、自身何裁判所附屬使部何某、何郡目代貴下ノ求メニ從ヒ、同郡糾問法官貴下ヨリ付セラレタル引致狀ヲ帶行シ、何所居住何職業甲ノ家ニ行進シ、其ノ人ニ面語シテ、本狀ヲ宣示シ、彼レ狀旨ニ循ヒ、自身ニ隨行メ、糾問法官貴下ニ詣リ、訊問ヲ受クルヲ要シ、
 彼レ即時命ニ順フタリ、乃チ甲ニ副本及宣示

証ヲ交付シタリ、宣示後、五本ノ呈示ハ、

使部 花押

甲 花押

被告人抗拒証書式

前文例ノ如シ

彼レ引致狀ニ順フヲ欲セサルヲ答ヘタリ、自身其ノ不法ノ抵抗アリト云ヒ、司法ノ使命ニ逃ル、一能ハズ、已ムヲ得ズ、法ノ許ス所ノ力ヲ用フミキヲ諭シタレド、彼レ仍_ホ確執シテ順ハズ、因テ、自身何所屯駐備警兵ヲ請

求シ、兵員何某何某參會シテ、甲ヲ勾執シ、糾問
法官貴下ノ前ニ引致シタリ、

使部
花押

被告人不在証書式

甲ノ家ニ行進シテ、甲ノ妻何某ニ面語シ、甲家
ニ在ル乎ヲ問フタレバ、彼レ不在ト答ヘタリ、
因テ、自身其ノ室内ヲ搜索シタレド、甲ヲ撞見
セザルヲ以テ、本狀副本及宣示証ヲ妻某ニ交
付シテ、其ノ家ヲ退キ、續テ本區ノ保安法官貴
下ニ詣リ、本狀及宣示証ノ正本ヲ呈示シ、保安

法官貴下之ニ檢証セリ、

帶行人
花押

檢証式

何年何月何日朝何時我等何區保安法官檢ス、

保安法官花押印

被告人門ヲ拒キ進ムベカラザルキハ、引致狀帶
行人即チ邑長副邑長若クハ保安法官若クハ警
察使ニ書札ヲ發シ、鉄工ヲ隨帶シテ、門ヲ排キ臨
視スルヲ請フ上、ノ諸官ハ、門ヲ排キ進入スルノ
權ヲ有ス、

式

自身何所屯駐備警兵何某法ニ依リ何區警察
 使費下ニ請フ自身帶行スル所ノ何所居住何
 職業何某ニ付シタル引致狀ヲ施行スル爲ニ
 本件ノ行事ニ臨視シ現ニ鎖閉スル所ノ門戸
 ヲ排カシメ、允テ法ヲ拒ムノ障阻ヲ除キ去リ、
 若クハ除キ去ラシメヨ、
 何年月日、何所ニ於テ

願狀人 備警兵花押

此ノ時ハ、檢察官其ノ請求ヲ得タル者、其ノ責ニ

任シ鄰佑二人會同花押ス、

千七百九十一年九月二十九日ノ法ニ曰、凡ソ引
 致狀ヲ帶行スル者ニ於テ、其ノ法ニ依ルノ令狀
 ヲ宣付セラレ、ノ本人ハ、即チ自由ノ人タルヲ
 被告ノ人ハ、刑ヲ受ケ自由ヲ忘ルベカラズ、又巳ム
 ヲ失フノ人ニテ、凡ソノ凌辱暴惡ヲ爲ス
 一、得ガレニ非ズシテ、凡ソノ凌辱暴惡ヲ爲ス
 ハ、法ニ代リ事ヲ行フ者ノ重罪タルヲ忘ルベカ
 ラズ、故ニ備警兵被告人ニ向テ令狀ニ順フヲ
 欲スル乎ト問ヒ、彼レ其言ニ從ヒ狀旨ヲ奉スル
 時ハ、同行者護シ、以テ檢察官ノ前ニ至ルベシ

若シ引致狀ニ順フコトヲ拒ム者アルキハ、即時力ヲ用ヒ押引スベシ、何トナレバ、凡ソ善治ノ國ニ於テ法章ニ恭順スルノ道立タサルベカラズ、又一人ノ抗拒、衆力ニ讓ラザルコトアルベカラズ、然ルニ所謂力ヲ用フル者ハ、巧ミニ之ヲ調用スルヲ要ス、之ヲ勾押スルナリ、之ヲ壓折スルニ非ザルナリ、以上法章原文

引致狀ニ因テ勾引シタル被告人ハ、即時糾問法官ノ官署ニ引致シ、二十四時ヲ出デズ、法官之ヲ訊問一過スベシ、典徵人出頭スレハ、即時訊問ス、故ニ

二十四時内訊問

引致狀ハ引致シ得ルノ日時、前定スベカラズ、故テ法官ノ為ニ、二十四時ハ、餘隙ヲ設ク、被告人訊問ヲ待ツノ間、法官署内ニ置クベカラザルヲ以テ、假ニ邑ノ勾留所監獄ト同若クハ裁判所書記局ニ寄置シテ、備警兵看守ス、即時收監スルコトヲ得ズ、收監狀ヲ得タル被二十四時ヲ過キテ、法官訊問セズ、仍淹時寄置スル者ハ、法官上等裁判所ヨリ不律ノ告戒ヲ受ケ、又被告人ヨリ要償ノ私訟ヲ受クベシ、

喚徵狀引致狀ニ因リ出頭シタル被告人ヲ訊問一過シテ後、情重キ者ハ、重罪、若クハ懲治罪犯ノ禁獄以上ニシテ、犯情險

即時
釈放

危者、收監狀若クハ勾留狀ヲ下シ、勾留シテ審ラ
候チ、其ノ一訊シテ、情白シ、無罪ヲ証明スル者ハ、
即時釋放ス、オルトラン氏ニ据ルニ、糾問法官意
ヲ下終無クシテ豫審得、随ヒ、重罪ト云ビ或ハ勾留スル
オルトラン氏曰、被告人訊問ヲ受クルノ後
ニ非レハ、其ノ逃亡シタル時ヲ除クノ外、收
監狀勾留狀ヲ付スルヲ得ズ、唯、喚徴狀引
致狀ノ下ニ在ル而已、訊問ノ後、更ニ勾留狀
ヲ下ス、是レ勾留寄監ノ初步ナリ、
引致狀ヲ得タル被告人、家ニ在ラズ、帶行人其ノ

室内ヲ搜索シテ撞見セザル時ハ、本狀ヲ其地ノ
邑長副邑長若クハ警察使ニ呈付シ、其ノ檢証ヲ
得テ、糾問法官ニ復報ス
被告人逃亡シタルハ、糾問法官、即チ收監狀若
クハ勾留狀ヲ下ス、罪、禁、獄ニ至ラザル者ハ、逃亡
ス、ト云ビ、收監狀勾留狀ヲ下
被告人逃亡シタル時ハ、令狀ヲ帶行シタル備警
兵ハ、被告人潛匿ノ所ヲ探索シ、若、其ノ證據ヲ得、
若クハ蹤跡ノ尋ヌベキヲ得タル時ハ、其ノ証書
中ニ具裁シテ、本郡ノ檢察官ニ復報シ、本郡ノ目

代ヨリ、被告人逃匿シタル地ノ目代ニ、令狀及探
索ノ事款ヲ傳ヘ捕亡セシム、十八百五十四年三月備警兵規則令、

收監狀

オルトラン氏曰、勾留狀、收監狀、並ニ勾住寄
監ノ方法タルニ過キズ、但、勾留ノ言タル、假
ニシテ、收監ノ義ハ、定ナリ、舊法、二狀ノ別、收
監ハ、ア洩廻スベカラズシテ、豫審落着ノ日ニ
至リ、勾留ハ、落着ヲ待タズシテ、收回スベシ、
千八百六十五年改正以來、二狀共ニ落着ヲ
待タズシテ、收回スベシ、是レ其ノ名異ニシ

テ其ノ實互ニ同シ、我カ所見ヲ以テスルニ、
勾留狀ノ名、今日尤モ事實ニ適セリ、今、收監
狀ノ程式ヲ以テ、勾留狀ニ移シ、而シテ收監
狀從テ廢スベシ、

ポール、セル氏ノ警察處務ニ云、法司ソ毎ニ勾
留狀ヲ用フルヲ稀少ナル者ハ、二狀共ニ其
ノ効力ヲ同シテ、收監狀ハ、費用差多キヲ以
テナリ、故ニ通常收監狀ヲ付スルハ犯人蹤
跡漠遠探索効シナキノ時ニ限ル、
按スルニ、新治罪法ニ、勾留若クハ捕亡ヲ命

スルニ、收監狀若クハ勾留狀ヲ下ス、糾問
法官ノ擇フ所ニ隨フ、諸家ノ説ニ據ルニ、二
狀其ノ効力ヲ同シテ、收監狀ハ、程式繁重、費
用差多キカ故ニ、糾問法官勾留狀ノ簡捷ヲ
利シ、大抵之ヲ慣用ス、是レ收監狀獨リ捕亡
ニ止マラズシテ、勾留狀亦以テ逃亡ヲ追捕
スベシ、今、勾留狀ヲ以テ勾留ノ章ニ属シ、收
監狀ヲ以テ捕亡ノ部ニ置ク者ハ、其ノ近キ
所ニ就クナリ、
被告人逃亡シ、兵士ヲ引キ追捕シ、隨所撞見シ、直

チニ監倉ニ勾引スルノ令狀ヲ收監狀トス、

收監狀式

何縣何郡裁判所

何某收監狀

法章及皇帝ノ命ニ從ヒ

我等何郡糾問法官何某、告誡ノ文憑、及目代貴
下ノ意見狀ニ依リ、役ニ應シタル九テノ使部
及公力士ニ命ス、左ノ被告人ヲ拿捕シテ、之ヲ
本裁判所ノ勾留所ニ勾引スベシ、

何所居住何職業何某

長、何尺何寸、額廣、鼻高、眼、碧色、口、大、

頤、シタホ兌下、面、平、扁、蛋、白色、眉、双、端、相、接、

頭髮、光、明、白、色

刑法三百五十三條重罪掠畧童兒律被告人
本勾留所監守人ニ命ス該被告人ヲ受管收監
スベシ、

凡テノ公カ士ニ求ム、若、本狀帶行人ヨリ本狀
ヲ示シ、請求スルコトアラバ本狀施行ノ爲ニ、助
カヲ借スベシ、因テ我等本狀ニ花押及調印シ
タリ、

何年月日何所裁判所ニ於テ

糾問法官花押印

宣示証式

本日何年何月何日何郡裁判所目代貴下ノ求

メニ從ヒ目代貴下ハ原告タル爲ニ本裁判所自

分何所屯駐備警兵何某何所居住何職業甲被告

人ヲ何所ニ撞見シ、其ノ人ニ面語シテ、本郡糾

問法官貴下ヨリ付セラレタル令狀ヲ宣シ、其

ノ正本ヲ披示シテ、其ノ副本及此ノ宣示証ヲ

授付シタリ、因テ狀旨ニ從ヒ、甲ヲ何所勾留所

要シ、搜索証書ヲ作ル、証書ヲ作ル者ハ、搜索遺漏ナキヲ証スルナリ、

收監狀帶行人搜索証書式

………例前ニ倣フ

何郡何問法官ヨリ何所居住何職業甲ニ向テ付セラレタル收監狀帶行人、何所屯駐備警兵何某本狀ヲ施行スル爲ニ、甲ノ本住何邑何街何号ノ家ニ進行シ、其ノ父何某ニ面會シタル三、數日來其ノ子遠出シタリ下答ヘタリ、因テ自身何某父ニ對シテ、本狀ノ副本ヲ授付シタ

リ、

此ノ下ニ一ノ花押ヲ置ク、 備警兵 花押

被告人ヲ捕獲セザルニ因リ、即チ其ノ場ヲ退散スルヲ無ク、其ノ最近ノ鄰人何某何某ニ室内搜索ニ參會シ証人タルヲ求メタリ、已ニ搜索シテ、仍_ト被告人ヲ見出サミルヲ以テ、乃チ其ノ家ヲ退キ、自身証人何某何某ト共ニ搜索証書ニ花押シタリ、

上同

備警兵 花押
証人 花押

証人 花押

續テ、治罪法百九條ニ依リ、本區保安法官貴下ニ詣リシニ、保安法官及補負共ニ不在ナルヲ以テ、乃チ本邑邑長貴下ニ詣リ、此ノ証書正本ヲ呈示シ、邑長貴下之ニ檢証シ、自身其ノ副本ヲ呈付シタリ、

備警兵 花押

何年月日、何所ニ於テ、我等邑長、檢ス、

邑長 花押

糾問法官ハ、收監狀帶行人ニ搜索令ヲ與ヘ、帶行

人ヲシテ、自ラ其ノ家若クハ、他人ノ家ニ強力進入スルヲ得セシムルヲ得、

搜索令式

我等何郡裁判所糾問法官何某、何々ノ報知及目代ノ意見ニ依リ、被告人何某何所甲某ノ家ニ逃匿シタル為ニ、共和八年ノ法章ニ於テ我等ニ與ヘラレタル權限ニ據リ、收監狀帶行人ナル凡テノ使部及公力士、法ニ循ヒ、晝間、甲ノ家ニ進入スルヲ許ス、若、外門内戸ヲ鎖シテ、啓カザル氏ハ、兩隣人ノ目前ニ於テ、鉄工ヲ喚

七、外ヨリ排カシムルヲ許ス、
九テノ公カ士ニ求ム、若シ本令ヲ披示セラレ
請求ヲ得タル時ハ、本令施行ノ爲ニ助カヲ借
スベシ、因テ我等花押調印シタリ、
何年月日、何所ニ於テ

糾問法官 花押

若、被告人ノ証憑物件、它人ノ家ニ窩藏シタル事
ヲ察スル時、亦同シ

諸令狀通則

九、諸令狀ハ、使部若クハ備警兵、帶行ス、勾留狀

收監狀ハ、兵カヲ要スルヲ以テ、大抵備警兵帶行
ス、
諸令狀ハ、正副二通ヲ作り、正本ヲ披示宣讀シテ、
副本ヲ交付ス、之ヲ宣示法トス、
諸令狀ハ、其ノ常套通用ノ文ヲ刻刷シテ、用紙ト
シ、發付スルニ臨テ、填録行下ス、
諸令狀ハ、國主ノ名ヲ以テス、故ニ其ノ發付スル
所ノ一部ニ限ラズ、廣ク全國ニ行フノカヲ有ス、
本狀帶行人ニ限ラズ、全國ノ備警兵、皆、狀ニ摺リ
捕亡スルノ任ヲ負フ、

收監狀ニハ、必ス人相書ヲ載ス、引致狀勾留狀ニ
ハ、治罪法ニ正文ナシト云、亦人相書ヲ附スル
ヲ要ス、

諸狀ニ、公カ士ニ求ムルノ文アリ、公カ士トハ、一
日、備警兵、二日、郷兵、三日、海陸常備兵、凡ソ地方官
安寧ヲ保持シ、司法檢官、法律ヲ處行スル爲ニ、皆
公カラ求ムルヲ得、但、國法ニ於テ、文武官相干
サズ、故ニ文官兵カラ要スル時ハ、之ヲ求ムルヲ
得、之ヲ命スルヲ得ズ、求ムルトハ、法ニ依リ
叶助ヲ求ムルノ謂ナリ、軍士ハ文官請求ノ文憑

アルニ非レハ、敢テ其ノ事ニ干旨スルヲ無シ、又
法ニ依リ請求スルノ文憑アリテ、帶行人其ノ文
憑ヲ披示スレバ、軍士即刻進行シ、敢テ逗留スル
ヲ得ズ、引致諸狀ハ、カテ下面被告人ヲ勾引シ、下面
公カラ求ムルノ文憑ニシテ、帶行人、力足ラザル
キハ、便近ノ兵士ヲ要シ、叶カ拿捕スルヲ得、
更ニ公カ士ニ列スト稱スルアリ、税關ノ吏人、林
警人、野警人、都府ノ邏卒、是レナリ、以上諸員ハ、素
ヨリ文官部ニ屬ス、令狀帶行人、力足ラザレバ、隨
在、上ノ諸員ニ叶助ヲ求ムルヲ得、若、自ラ危迫

ヲ受クルニ至レバ、所在ノ民人ノ助ケヲ借ル
ヲ得

違警犯ニハ、令狀ヲ以テ提喚スルヲ假ラズ、通帯起喚

テ用ヒテ足ル

令狀帶行人ノ被告人ヲ勾引スルニ、各時各情、其

ノ處分ヲ異ニス、今分テ六目トス、以下ハレウニ、
氏備警兵字類

ルニ据

第一 被告人現在スル時、

被告人現在シテ、引致狀帶行人ノ其ノ家ニ
行進スルヲ拒マザルキハ、帶行人其ノ令狀

ヲ宣示シ、同行看押シテ、糾問法官ノ前ニ至
ル、被告人若シ順ハザル時ハ、カラ用ヒ押引
ス、

第二 被告人現在シテ門ヲ拒ム時、

帶行人即チ強テ進入シテ引致ヲ行フベシ、
若シ閉チテ進ムベカラザルキハ、邑長、副邑長、
若クハ保安法官、若クハ警察使ニ書札ヲ發
シ、鉄工ヲ隨帶シテ、門ヲ排オキラキ、臨視スルヲ
請フ、

第三 被告人它人ノ家ニ匿レタル時、

帶行人其ノ故ヲ家主ニ告ケ、家主拒マザル
時ハ、進入シテ令狀ヲ施行ス、被告人ヲ勾引スルヲ云、若
家主門ヲ拒テ入レザル時ハ、其ノ家ヲ圍守
シ、前ニ因リ檢察官ノ臨視ヲ乞ヒ、或ハ目代
ノ指揮ヲ待ツ、搜索令ヲ云、

第四 被告人家ニ在ラザル時、

若引致狀ヲ帶行スルニ當テ、被告人在ラザ
ルキハ、帶行人、室内ヲ搜索シ、本狀ノ副本ヲ
被告人ノ父母妻子若クハ奴婢ニ交付シテ、
其ノ家ヲ退キ續テ、其ノ正本ヲ其地ノ邑長

副邑長若クハ警察使ニ呈示シ、上ノ諸官之
ニ檢証ヲナシ、帶行人乃チ糾問法官ニ復報
ス、

第五 被告人逃亡シタル時

被告人逃亡シタルキハ、糾問法官即チ收監
狀ヲ下シ、帶行人被告人ノ家ニ進入シ、該被
告人ト証憑物トヲ搜索シ、鄰佑ノ會參ヲ得
テ、証書ヲ作り、保安法官ノ檢証ヲ取り、本狀
及証書ヲ裁判所書記局ニ還付ス、

第六 被告人本郡ノ外ニ於テ撞見セララル、

時

若シ被告人逃亡シ、引致狀ヲ下シタルノ後
 二日ヲ出テズ、即チ第三日本郡ヲ去ル一里ヲ越
 ニズシテ、發獲セラル、時ハ、令狀引致狀收
 狀ノ帶行人、即時之ヲ其ノ地ノ保安法官、若
 クハ邑長、若クハ警察使ノ前ニ引致シ、上ノ
 諸官、其ノ令狀ニ檢証シ、帶行人ノ不法ヲ然
 ル後ニ、本郡司法官ニ引致ス、○若シ引致狀ヲ
 得タル被告人狀ヲ下シタルヨリ二日ヲ越
 ルノ後、即チ第四日本郡ヲ去ル一里ノ外ニシテ、

發獲セラル、時ハ、其ノ携帶物件文書器械、
 証憑トスルニ足ルモノアルヲ除クノ外、前
 例ニ仍リ、強テ被告人ヲ本郡ニ引致スル
 ヲ得ズ、先ツ被告人ニ問ヒ、被告人本郡ニ勾
 引セラル、一ヲ欲セザレバ、唯其地ノ目代
 官ニ引致シ、目代、勾留狀ヲ下シ、假ニ其ノ地
 ニ勾留ス、○若シ收監狀ヲ得タル被告人ハ、
 遠近ヲ論ゼズ、隨所撞見スレバ、備警兵屯
 遞傳シテ、本郡ニ送致ス、
 允ソ令狀ヲ付シ、犯人ヲ勾引スルニ、夜間人家ニ

進入スルヲ得ズ、

若、夜間被告、人、它人ノ家ニ匿レタルキハ、帶行人、
故ヲ家主ニ告テ門ヲ開クヲ求メ、家主求メニ
順フ時ハ、進テ勾引ヲ行フ、若、家主門ヲ開クヲ
拒ム時ハ、其ノ家ヲ圍守シテ、天明ヲ待ツ、
法ト參
スベシ、 它現行
犯拿捕

言海

○第十七章

捕獲逃亡人犯

凡ソ兇徒、賊盜、兇殺、亂民、脱監、逃役、及其ノ它、被告
人、逃亡スル者ノ人相書ハ、之ヲ全國備警兵ニ授
ケ、撞見捕獲セシム、
凡ソ人相書ハ、刻刷シ、類編シテ冊子トシ、何号冊
何百何十何号ノ掛号ヲ用ヒテ、目次ヲナス、其ノ
編冊ハ、内務執政ヨリ、時々、備警兵ニ下付ス、此ノ
人相書中ニハ、大抵司法官ノ裁判宣告、若クハ引
致狀收監狀ヲ舉ケ、及内務執政ノ花押アルヲ以

司法省

邏兵即
備警兵

テ拿捕及勾留ヲ命スル公正ノ力ヲ有ストス故
ニ人相書ニ載スル狀貌ノ人ヲ撞見スレバ、邏兵
其ノ姓名ヲ問ヒ、其ノ年齢職業住所ニ及ヒ、其ノ
詐ヲ構フル者ヲ審詰シ、多方訪察シテ、カメテ實
ヲ得、其ノ果シテ物色人ナルヲ察スル時ハ、其
ノ被告人、收監狀ヲ得タル者ニ在テハ、邏兵便チ
其ノ所ノ保安法官若クハ邑長警察使ノ前ニ引
致シ、其ノ人相書ニ檢証ヲ爲サシメ、即時之ヲ其
ノ所ノ勾留所ニ勾留シテ、遞傳ノ期遞傳ノ解備
警兵ノ章ニ
見ヲ待テ、本犯所ニ送致シ、其ノ被告人、引致狀ヲ

五九二

得タル者ニ在テハ、本人ノ擇フ所ニ從ヒ、或ハ直
チニ遞傳シ、或ハ其ノ地ノ目代ニ引致ス
人相書ヲ得タル犯人ヲ探索スル爲ニ、備警兵ハ、
旅店茶酒店ヲ巡看シ、旅店ノ記冊ヲ檢視ス、
備警兵各屯ニ、人相書ヲ編冊シ、各員携フル所ノ
日記、其ノ名狀ヲ載録ス、犯人已ニ得ラル、フ報
スルニ至ル迄ハ、檢索怠タルヲナシ、

人相書式

何縣何郡何區何邑出產ノ男、何歳何職何所居
住、氏某、名某、

司法省

長、何尺何寸、 髮、鼠色、 額、狹小、 目、碧色、

鼻、鷹嘴狀、 口中等、 額、銳、

髯、光白ニシテ、容、項後ニ禿、剃ノ痕アリ、

面、楕圓平扁、白皙ニシテ、チカカ瘡痕アリ

右足偏短

凡ノ麻百贅疣ノ如キ、異常ノ外相アリ、及
眇眼、偏足、頭髮禿、剃ノ、假髭ヲ用ル如キノ
羸疾アル者ハ、細悉ニ記載スルヲ要
ス、其ノ写真ヲ得ル者ハ、写真ヲ加フ、

依人相書捕獲報告書式

本日何年何月何日、我等何所屯駐、備警兵某々、
制服ヲ着シ、上官ノ命ニ循ヒ、本市ニ夜警シ、何

街ニ至ルノ間、一ノ旅人アルヲ見テ、其ノ路引
ヲ求メタルニ、渠レソレヲ失フタリト云フ、其
姓名年齢職業住所ヲ問フタルニ、渠レ云々ト
答ヘタリ、我等渠レハ去年十月十五日ノ内務
執政ヨリ授サレタル人相書編冊ノ第四百四
十二冊ノ第十六号ニ載セタル何某ナル者ナ
ラント信シ、乃チ之ヲ屯營ノ中ニ勾引シ、人相
書ト對比シタルニ、果シテ何某ニ相違ナシ、何
某ハ、即チ何縣何郡ノ乱問法官貴下ヨリ下付
サレタル引致狀ニ依テ勾捕スベキ者ナリ、其

ノ身体ヲ探索シタルニ疑ハシキ物具文書器
械ナシ、爾チハ人相書ニ載セタル何某タル
ヲ承認スル乎、及直チニ何縣何郡ノ糾問法官
ノ前ニ引致スルヲ承服スル乎ト問フニ、渠
レ否ト答ヘタリ、乃チ治罪法百條ニ循ヒ、我等
渠レヲ本郡ノ目代貴下ノ前ニ引致シ、目代ヨ
リ勾留狀ヲ下シ、本市ノ勾留獄ニ勾置シタリ、
或ハ直チニ何縣何郡ノ糾問法官即チ嚮ニ引
法官タルノノ前ニ引致スルヲ承服スル乎ト問
フニ、渠レ命ニ順フベキヲ答ヘタリ、乃チ人

相書編冊ノ四百四十二冊第十六号ニ載セタ
ル命ニ依リ、我等、渠レヲ本市ノ勾留獄ニ勾置
シ、仍次ノ遞傳便ヲ以テ、何郡ニ轉送シ、以テ糾
問法官ノ前ニ引致スルニ供ヘントス、因テ、我
等、此ノ報告書ヲ作り、正本ハ、本郡ノ目代貴下
ニ上呈シ、副本ハ、本縣ノ備警兵隊長貴下ニ上
呈スルニ供フ、

何年月日、何所ニ於テ、筆録結封ス

備警兵

花押

全上

甲糾問法官倚托乙糾問法官行訊問

甲地ニ於テ、罪ヲ犯シ逃亡シ、乙地ニ於テ、捕ニ就
 クキハ、其ノ引致狀ヲ付セシ日ヨリ第三日ヲ越
 ズ、及甲地ノ近傍ニ在リ、捕ニ就キ、若クハ兇器証
 憑文書物件ヲ携持シ捕ニ就クヲ除クノ外、犯人
 ヲ強ヒ、甲地ニ發往シテ、訊問ヲ受クルヲ得ザ
 ル者、捕手之ヲ乙地ノ目代ニ引致シ、目代勾留狀
 ヲ下シテ、乙地ノ勾留所ニ勾留シ、二十四時内ニ、
 文移ヲ以テ甲地ノ目代ニ報知シ、并ニ証告書ヲ
 遞送ス、甲地ノ目代早速其ノ糾問法官ニ轉報シ、

法官ハ、甲地所在ノ該犯賊証文書ヲ緘封シテ、乙
 地ノ糾問法官ニ送り、乙地ノ法官ニ依托シテ、被
 告人ヲ訊問セシメ、乙地ノ法官求メニ應ジ訊問
 シ、供書成テ後、之ヲ甲地ノ法官ニ送り、并セテ賊
 証文書ヲ還付ス、甲地ノ法官已ニ供書ヲ得テ後、
 其ノ情ノ輕重ニ隨ヒ、或ハ收監狀ヲ付シテ被告
 人ヲ甲地ニ引致シ、收監シ、或ハ仍乙地ニ於テ勾
 留セシム、此ノ法アル所以ハ、被告ノ有無未
 高相遠キ者ハ、情勢已ニ長シ、捕ニ就クノ人、果シ
 テ誹被告人ト同ク、人ノ保ツル能ハズ、其ノ
 意好ニ逆テ、遠道轉移スルヲ保ツル能ハズ、其ノ
 意好ニ逆テ、遠道轉移スルヲ保ツル能ハズ、其ノ
 意好ニ逆テ、遠道轉移スルヲ保ツル能ハズ、其ノ

重緊ニシテ、已ニ收監狀ヲ得タル者ハ、此ノ例ニ
アラズ、隨所撞見、本所ニ轉送ス、

囚人護送

逃亡人犯、它郡ニ於テ捕ニ就キ、本郡ニ送致スル
ノ法ハ、備警兵甲屯ヨリ乙屯ニ送り、乙屯ヨリ丙
屯ニ送り、以テ本郡ニ轉送ス、各屯隣ノ間、定日
時ニ、双方ノ備警兵、距離平均ナル遞傳線ニ相會
シ、囚人及証憑物ヲ交互授受ス、護送兵ヲ儉省ス
ル所以ナリ、已ニ備警兵ノ章ニ見ユ
凡ソ囚人新ニ捕ニ就キ、及別屯ヨリ轉送シ來ル

者ハ、其ノ翌日マテニ、本屯必ス護送ヲ發シ送去
スルヲ要ス、淹滞數日ニ至ルヲ得ズ、故ニ翌日
マデニ、定日遞傳期ナギ時ハ、非常遞傳ヲ發ス、
相會スル備警兵ノ數ハ、二人以上、多少ハ囚人ノ
數ニ視テ、囚人ノ輕重ニ從ヒ多少アルハ、備警兵
隊長ヨリ發スル護送狀ニ其ノ數ヲ示ス、

護送狀式

第幾聯隊

何縣隊

護送狀

護送備警兵

何人

下士官 或ハ備警兵
中ノ首長 何某

何縣備警兵ノ隊長何所屯駐ノ伍長何氏

何歳何所居住、何職業何某、長何尺何寸毛

髮黑、額被髮、眉黑、眼灰色、鼻起隆、口中等鬚

黑、頤廣、面、楯圓暗黑細麻顏、人家夜盜ノ

被告人、

本府ノ勾留所ヨリ引出シ、屯々遞傳シテ何

縣何郡ニ至リ、日代 或ハ
問法官 ノ前ニ送致スル

ヲ命ス、

本被告人ノ護送ニ遞次任役スル所ノ下士官

及備警兵諸人ニ、慎重ノ看護ヲナス。トヲ托ス、

諸人ハ、法章ニ於テ、其ノ委托サレタル囚人ニ

付テ、身其ノ責ニ任ズベキヲ忘ルヘカラス、

又力所及防護ノ處置ト慈惠ノ道トヲ調用シ

テ、以テ千八百五十四年三月一日ノ令ニ命シ

タル諸人ノ義務ヲ充タス。トヲ欲スベシ、

若一人モ逃亡スル時ハ、護送人首長、早速申狀

ヲ作リ、逃亡ノ情事ヲ詳載シ、其ノ它ノ証憑類

ト共ニ、直チニ本郡ノ備警兵隊長ニ送り、及 カ
タ

面逃亡人ヲ捕獲ヘル爲ノ搜索追蹤ヲ怠ラザ

ルベシ。此ノ事ニ付テ、微少ノ違失。忽畧モ、下士官及備警兵諸人ヲ重刑ニ當ツメシ

何年月日何所ニ於テ

何郡備警兵分隊長 花押

若シ司法官ノ令狀ニ依テ轉送スルキハ、護

送狀ニ目代ヨリ備警兵士官ニ轉送ヲ求

ムルノ牒狀ノ舉ク、

証憑物件アリテ、囚人ト共ニ送ル者、其ノ

目錄ヲ掲ク

護送狀ハ、必ス一人一狀ヲ法トス若シ二人

以上、一狀ヲ以テ兼ル時ハ、半塗、一人疾アリテ留養スルガ如キ、合セテ它ノ一人ノ送致ヲ淹滯センコトヲ恐ル、

甲屯ノ護送兵員ハ、獄吏ヲシテ、其ノ目前ニ於テ、獄舎簿冊ニ護送狀ヲ正寫ヒシメ、受領狀ヲ獄吏ニ付ス、其ノ式

護送狀 云々或ハ目代ノ牒

物件何々

護送首長、此ノ護送狀 或ハ牒狀ニ依テ、何某、何所ニ引致セララル、爲ニ、今日何所勾留所ヨリ引出

サレ、トヲ証ス、

本日何年月日、何所ニ於テ

護送首長 花押

此ノ受領狀ハ獄吏若クハ裁判所ノ書記、執筆シ、護送首長、花押スルノミ、

然ル後ニ、本狀ノ名狀スル所ヲ照シ、本囚ヲ引出シ、又証憑物件ヲ裁判所書記局ヨリ受取り、送テ遞傳線ニ至テ、乙屯ノ護送兵員來ル者ニ付ス、乙屯ノ護送兵首長ハ、護送狀ニ据リ、囚人ヲ檢照シ、甲屯護送兵首長ノ目前ニ於テ、囚人ノ姓名及物

件目錄、及囚人向フベキノ地ヲ、其ノ日記ニ記シ、又受領証ヲ與フ、式

護送狀、并ニ狀中ニ載ヒタル物件ヲ受領ス、

丙丁戊己、遞次相受ケ、囚人所属本所ニ至テ、之ヲ

所属官ニ付シ、所属官ヨリ、領收結証ヲ取ル、

塗中、囚人ヲ勾留所ニ寄宿セシムル時ハ、囚人ヲ

獄吏ニ付シテ獄吏ヲシテ、其ノ目前ニ於テ、簿冊

ニ護送狀ヲ抄寫セシメ、及領置証ヲ記ヒシメ、護

送首長ニ付ス、翌日ノ護送兵、本囚ヲ勾留所ヨリ

引ク、例前ニ仍ル、

備警兵士官ハ時々不意ニ遞傳線ニ至リ、護送兵ノ律ヲ守リ、及囚人ヲ遇スル無狀ナラザル乎ヲ監視ス、

凡ソ遞傳ハ、日ヲ以テシ、夜ヲ用ヒズ、大抵朝ニ於テシ、夏間ハ、早朝ニ於テス、囚人ノ爲ニ熱ヲ避ルナリ、夏時及冬時、遞傳線會合ノ時刻ハ、分隊長指定ス、及各屯ヨリ發足、及中憩ノ時刻モ、亦分隊長指定ス、

備警兵護送スル者、馬ニ乘リ、及ヒ歩進スルヲ論セズ、銃口ヲ開キ、彈包ヲ貯ヘ、兵裝十分ナルヲ要

ス、

囚人ハ歩若クハ氣車ニ乘リ護送ス、但シ重緊情事アリテ、目代ヨリ其ノ故ヲ述ベタル牒狀アル時ハ、馬車或ハ馬ニ載ス、又囚人廢疾疲羸若クハ疾患アリ、若クハ疾起テ歩行シ難キノ願アルキハ、監獄附属ノ醫師ノ証書ヲ以テ、車馬ニ載ス、車馬ハ、其ノ地方官供給ス、若シ囚人ヲ馬車ニ載スル時ハ、備警兵其ノ中ニ同乘ス、

男女囚ハ各別ニ護送ス、

護送ノ間備警兵ハ、嚴ニ囚人ノ酒燒酒ヲ飲ム
ヲ禁ズベシ、又時宜ニ從ヒ、吸烟ヲ禁ズルヲ得
ベシ、
備警兵、囚人ト懇話スルヲ禁ズ、殊ニ囚人ト飲
食スルヲ嚴禁ス、其ノ囚人ヨリ貨物ヲ受ケ、若
クハ借ル者ハ、刑法四百一條及四百五條ニ循ヒ、
罪ヲ受ク、
凡ソ捕ニ就クノ人ニ向ヒ、不要ノ殘刻ナル處置
ヲナス、法ノ嚴禁スル所トス、然レモ拒抗逃亡
ノ舉動アル者ニ至テハ、時宜ニ隨ヒ、鐵鎖ヲ用ル

トヲ許ス、其ノ重大罪犯ハ、大指鈕ヲ用フ、兩手ノ
結束ス此レ至テ稀ナルノヲナリ、其ノ它粗大ノ
鐵鎖及項枷ヲ用ヒ、囚人ヲ傷ツクルヲ致シ、及鉄
鎖ノ一端ヲ車馬ノ裝具ニ結束シ、以テ不意ノ危
キヲ致スヲ得ズ、
若、囚人逃亡ヲ謀リ、カヲ用ヒテ抗拒スル時ハ、護
送兵ノ首長タル者、法ニ依テ告戒シ、又其ノ告戒
ニ順ハザルキハ、兵器ヲ用フベキヲ告ク、彼レ
聽カザル時ハ、即時兵器ヲ用ヒ、抑制ス、
若、囚人兵器ノ下ニ死スルアルヲ致ス時ハ護送

兵便即其ノ地ノ保安法官ニ報知シ、保安法官ハ、
即時其ノ地ニ出張シ、護送兵ハ、其ノ前後情狀ヲ
録シテ、申狀ヲ作り、所在ノ兵、皆之ニ花押シ、保安
法官ニ付シ、又一通ヲ備警兵隊長ニ送り、隊長ヨ
リ所属官ニ送報ス、若、多囚ヲ護スル時ハ、它ノ囚
ハ、仍^ホ遅延ナク送去ス可シ、

若、囚人、塗ニ在テ逃亡セシキハ、護送兵、申狀ヲ作
リ、殘ル處ノ証憑物件ト共ニ、其人縣ノ備警兵隊
長ニ送り、隊長ハ、護送兵ノ怠忽ニ出ル歎、若クハ
造意ニ由ル歎ヲ探照シ、一面捕亡追蹤ヲ命シ、一

面囚人ノ所属官ニ送報ス、若、多囚ヲ護スル時ハ、
它ノ囚ハ、其ノ証憑物件ト共ニ、仍^ホ遅延ナク送去
スベシ、
囚人ノ死及逃ヲ所属官ニ送報スルトハ、被告人
ナレハ、其ノ令狀ヲ下シタル糾問法官ニ、若、禁役
以上ノ刑人ナレハ、目代、及内務執政ニ、其ノ它ノ
懲治刑人ハ、目代ニ、軍人ハ軍務執政ニ送報スル
ヲ云、及囚人ヲ送致スベキ所ノ官ニ送報ス、
囚人逃亡スルキハ、護送ノ備警兵ハ、刑法二百三
十七條已下ニ循テ、罰ヲ受ク、

若、囚人歩行シテ、途中疾起ル時ハ、護送首長ヨリ、
便即護送卒ノ一人ヲ遣リ、最近ナル邑長、若クハ
副邑長ニ報シ、邑長ハ便近ノ獄舎若クハ病院ニ
載送スルノ供ヘヲナス、其ノ獄舎ニ在テハ、病室
ニ置キ、其ノ獄監領証ヲ護送卒ニ付ス、病院ニ在
テハ、禁圍室ニ置キ、吏人監管ス、其ノ病院及獄舎
ナキノ地ニ於テハ、假ニ備警兵屯所ノ禁室ニ置
キ、邑長資料ヲ給シ、其ノ病少間ヲ待テ、病院若ク
ハ獄舎ニ轉送ス、
備警兵已ニ病囚ヲ邑長ニ付シタルキハ、其ノ証

憑物件ヲ本區ノ屯長ニ領置シ、病囚ノ照管ニ關
セズ、只、病囚已ニ痊エテ、仍、^ホ滯留セザルコトヲ監査
ス、病囚已ニ痊ユルキハ、其ノ病室出入ノ日及遷
延ノ由ヲ録シタル証書ヲ取り、再タヒ護送ヲ行
フ、
若、囚人塗ニ在テ病死スル時ハ、護送卒、即刻、其ノ
地ノ邑長ニ報シ、邑長臨視シテ、護送卒ノ陳述ニ
據リ、死去証書ヲ作り、目代ノ許ヲ得テ、葬埋ヲ行
フ、護送卒ハ、其ノ死去証書副一通ヲ得テ、殘ル所
ノ証憑物件ト共ニ、本郡ノ隊長ニ送付シ、隊長ヨ

リ大隊長ニ遞送シ、大隊長ヨリ囚人所屬ニ送報
ヲナス、

傳送中、囚人ハ勾留所ニ歇宿ス、若シ勾留所ナキ
時ハ、各屯ノ禁室ニ寄宿シ、備警兵看守ス、

男女ハ、同宿ヲ容レス、若男子ヲ屯所ノ禁室ニ歇
宿セシムルハ、女子ハ、邑長ニ委シ、便宜宿室ヲ

供へ、備警兵看守ス、
凡ソ囚人護送ハ、各屯遞傳ヲ以テ常法トス、各屯

遞傳ヲ用ヒズシテ、一屯ノ護送兵、其ノ部外ヲ出
テ、諸屯ヲ越テ、直チニ囚人ノ所屬地ニ至ル者、是

レヲ非常法トス、非常法ハ、執政ノ命、若クハ上等
裁判官負ノ求メニアラザレバ、行フコトナシ、又不
孝兒狂癲人ヲ獄舎ニ寄置スル者、其ノ父母後見
人若クハ親族會議ヨリ、非常護送法ヲ願フ者ハ、
特ニ之ヲ許ス、

若、囚人資力アリテ非常護送ヲ願フ者ハ、官ニ乞
テ、許ヲ得、其ノ護送兵ノ部外旅行ノ往來償給ヲ
支當スベシ、

護送囚人沿途ノ飲食資用ハ、各縣ヨリ支給ス、
軍
ハ、陸軍省
支出ス、其ノ食料、及臥牀ノ草布ハ、勾留ノ時ニ

同シ、

護送兵ハ、囚人塗上ノ資給ニ注意シ、若シ姦弊アル時ハ、邑長ニ知照シ、其ノ掛リノ者ヲ早速責戒セシム、其ノ勾留所ニ在テハ、獄吏供給シ、其ノ屯所ノ禁室、若クハ邑長ヨリ假ニ與ヘタル室中ニ寄置スル時ハ、邑長供給ス、

若、囚人塗中ニテ、衣履ヲ要スル時ハ、獄舎附属醫員ノ証書ヲ以テ、邑長ヨリ給與ス、

已ニ處刑ヲ宣告シテ、役所徒所ニ送ル者ハ、目代ヨリ、備警兵長ニ牒狀ヲ移シ、備警兵長護送狀ヲ

下、例槩シテ前ニ同シ、

按スルニ、囚人護送ノ方法、治罪法書ニ、一條章ヲ見ズ、之ヲ備警兵諸書ニ索ムルニ及テ、始メテ其ノ詳ナルヲ得、而メ尤モ其ノ委悉曲到、慈仁ノ意、細小遺サヅルヲ嘆スルナリ、蓋シ護送ヲ求ムルハ、檢官ノ事ニメ、而メ求メニ應シ護送スルハ、備警兵ノ任、檢官預カルヲ無シ、是レ兵務ニメ、檢務ニ非ルナリ、故ニ治罪法書ニ掲ケザル而已、備警兵則ニ兵已ニ求メニ應シ、処行スル時ハ、其ノ方法、專ラ兵規ニ循ヒ、司法官干冒スルヲ得ズ、

司
法
官

治罪法備考上編第五卷終

